

若者の県外流出を防ぐための 大事な「種まき」

～キャリア教育の推進～

本県産業界が抱える人材面での課題として、若者の県外流出を挙げることができます。

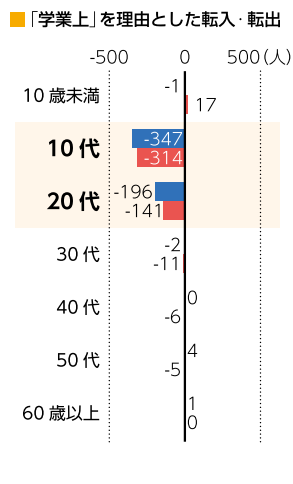
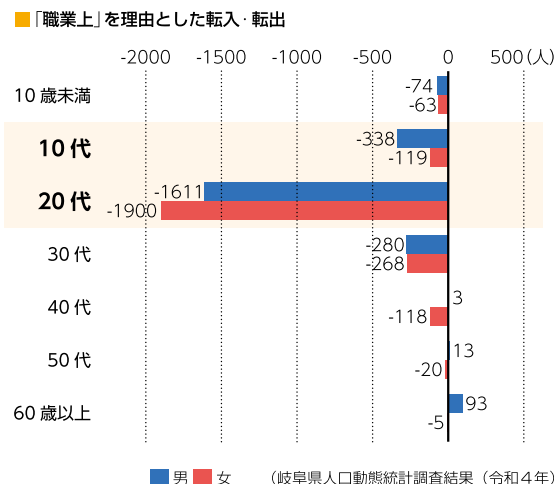
岐阜県人口動態統計調査結果(令和4年)によると、学業上を理由とした転出入では10代で▲約700人、職業上を理由とした転出入では20代で▲約3,500人と、10～20代の層に大幅な転出超過が集中しています。一方、こうした県外への進学者のUターン率は3割程度(令和6年度県産業人材調べ)に留まり、過半数を超える若者がそのまま県外に留まっている実態が浮かび上がってきます。

県では、若者が県外就職を選ぶ要因の一つに、県内企業の大半を占めるBtoB企業(企業間取引を生業とする企業)を筆頭に、県内の魅力ある企業が知られていないことにあると考えています。特に、県外進学者は岐阜県の情報に触れる機会が少なくなるため、知名度で不利な状況にあるBtoB企業については、より一層積極的に情報発信する必要があります。

そこで、県商工労働部では、若者の県外流出を防ぐための「種まき」として、BtoB企業を中心に、多くの学生に県内企業の魅力を知っていただき、県内就職を選択肢に入れてもらえるよう、進学者が多い愛知県をはじめとする県内外の

大学・専門学校や、高専、県内高校等と連携し、低学年からのキャリア教育に取り組んでいます。

今回は、県が実施していますキャリア教育の推進についてご紹介させていただきます。



1 特徴はオーダーメイドの キャリア教育

キャリア教育の取り組み自体は珍しいことではなく、教育現場や各種業界など、様々な主体がそれぞれの目的のために素晴らしい取り組みを行っています。県商工労働部が実施するキャリア教育の特徴は、「県内企業の魅力を知っていただく」ため「全てオーダーメイド」で柔軟に企画する点です。

企画に際して、まずは県職員が、キャリアコンサルタント資格を有するコーディネーターと一緒に、県内及び近隣他県(特に愛知県)の大学や専門学校、県内高校などを訪問してヒアリングするところから始めます。学校側のニーズに応じていちから企画するため、結果として、対象者も規模もやり方も一つひとつ異なってきます。令和4年度から県立高校を皮切りに試行的に取り組み、これまで計13校の大学・専門学校・高校等で実施してきました。

2 「岐阜県で働く魅力」の講義

一番オーソドックスなやり方です。大学や高校の授業時間の一部をいただき、オリジナルのテキストを用いて「岐阜県で働く魅力」をテーマとした講義を行います。講師は、県職員、前述のコーディネーターなどが務めます。特に、「実は県内でこんなすごいモノが造られていた」という、BtoBのメーカー製品を紹介する授業が人気です。

5 その他の取り組み

企業風土までよく理解できたと好評でした。

学校側のニーズも多様です。ある県内高校では、「当校ではOB社会人との交流はすでに実施しているが、それを若手教員のために開催してほしい」と言われました。聞けば、コロナ禍で企業との接点を持つ機会が減ってしまったからということでした。そこで、地元企業と若手教員との交流研修を企画しました。全教員の半数が参加くださったなど、学校側の課題感がよく表れた取り組みでした。

また、ある県立高校では、「約360名の1年生全員に企業訪問をさせたい」という熱い想いをお聞きし、「チャレンジ・オープンカンパニー」という企画を実施しましたが、今年度は96社の企業訪問が実現しました。

このほかにも、大学キャリアセンターや高専が主催するキャリア形成プログラムのなかで、前述した講義、パネルディスカッション、企業カフェなどを実施させていただく機会も増えました。

6 オール岐阜・企業フェス 「高校生の日」

県では、平成28年度から、県内最大級の規模となる合同企業展「オール岐阜・企業フェス」を毎年開催してきましたが、令和4年度から高校生限定の「高校生の日」を新たに始めることにしました。



「企業カフェ」とは、本連載の1月号でご紹介した県が運営するキャリアセンター「ジンチャレ」が、県内企業と求職者をつなぐイベントとして、JＲ岐阜駅に隣接する「ジンチャレ! ぎふJOBステーション」で定期的に開催している公募制の小規模座談会です。これを、連携先の学校の学生向けに、特別に企画しました。

4 連携学校のための企業カフェ (少人数での座談会)

「企業カフェ」とは、本連載の1月号でご紹介した県が運営するキャリアセンター「ジンチャレ」が、県内企業と求職者をつなぐイベントとして、JＲ岐阜駅に隣接する「ジンチャレ! ぎふJOBステーション」で定期的に開催している公募制の小規模座談会です。これを、連携先の学校の学生向けに、特別に企画しました。

3 企業の若手社員と学生との パネルディスカッション

これもオーソドックスなやり方です。授業時間の一部をいただき、若手社員が、「なぜ今の企業に就職したの?」とか、「岐阜県で働く魅力は?」といった質疑応答をパネルディスカッション方式で行います。出演した若手社員の成長にも繋がると、企業側からも高い評価をいただいています。さらに、ある県内大学では、こうした座学に加えて実際に企業訪問する授業も企画しました。

きっかけは、県内企業の皆様の高卒人材への期待感の高まりが大いに感じられたためです。とはいえ、今や高卒者の75%が進学しており、やる意味があるのかと考える方もおられるかもしれません。しかしながら私どもは、高校時代に得た地元企業の知識が、必ずや数年後の就職活動で効いてくると信じています。

今年度は2日間の日程に約1,800名の高校生の参加を得て、会場は大変な賑わいでした。県では、今後「高校生の日」の開催日数、開催場所の拡充を検討しているところ です。



おわりに

人手不足が深刻化するなか、目の前の人材確保に取組むことはもちろん重要ですが、一方で、将来の人材を育てる「種まき」を併せて行うことも重要だと思います。いや、むしろ、学生の本格的な就職活動や企業選びが始まってからでは遅いのです。

当部のキャリア教育の取組みはこれで足掛け3年となりましたが、徐々に連携校が増え、ノウハウの蓄積も進んできました。県では、今後も県内企業の皆様と手を携えてキャリア教育に取り組んでまいります。



岐阜県中小企業総合人材確保センター センター長

増田 雅彦